



②



①



④



③



⑥



⑤



⑨



⑧



⑦



⑩

# 第一部 時津風日乃出松 〜鳴山城内の場〜

- ① 勝どきを上げる長沼盛秀
- ② 祝杯を上げる長沼家
- ③ 愉快的話をする長沼家家臣
- ④ 伊達政宗の軍勢を目の当たりにする長沼家の隼人之助
- ⑤ 和睦を勧める片倉小十郎景綱
- ⑥ さんさ時雨を舞う伊達家の左馬之助
- ⑦ 情景や役者の心情を語る義太夫
- ⑧ 歌舞伎の演出に欠かせない鳴物
- ⑨ 自分の命と引き換えに戦を止める長沼家の隼人之助
- ⑩ 隼人之助を称える長沼盛秀

## 第十三回

## 田島祇園祭屋台歌舞伎

## 特別舞台公演



12月14日、第13回田島祇園祭屋台歌舞伎特別舞台公演が御蔵入交流館で開催されました。

第1部は、9月から稽古に取り組んできた田島小学校3年生が、田島地区にある鳴山城を舞台に、長沼家と伊達家を描いた物語「時津風日乃出松〜鳴山城内の場〜」を上演しました。

第2部は、歌舞伎保存会の高校生から大人の役者たちによる、一の谷の合戦後の平家の武将敦盛と、源氏の武士熊谷直実の悲劇を描いた「一谷嫩軍記〜須磨ノ浦の場〜」を上演。

第3部は、同保存会の幼稚園から中学生の役者たちによる、江戸廻米の廃止や年貢減免等を江戸幕府へ直訴した百姓一揆を題材とした地元オリジナル演目「南山義民の碑〜地蔵が辻の場〜」を上演しました。

艶やかな着物をまとった役者たちが、義太夫節やツケに合わせて本格的な見得を披露。堂々とした演技に、来場者からは盛大な拍手が送られました。

また、開演前には田島しゃんぎり保存会による、しゃんぎりの演奏も行われ、会場を盛り上げました。

## 田島祇園祭屋台歌舞伎の歩み

田島祇園祭屋台歌舞伎は、江戸時代末期から明治の初め頃まで子どもたちによって演じられてきました。しかし、明治6年に学制が制定され、「教育上好ましくない」との理由から、子どもたちによる上演は一度途絶えてしまいました。これ以降、会津田島祇園祭では、地元青年会の習い芝居や買い芝居など、さまざまな形で歌舞伎が上演されていきました。

平成4年の夏頃から、子ども歌舞伎を復活させようという機運が高まり、町民有志により同年9月に「田島祇園祭屋台歌舞伎保存会」が設立され、平成6年から、会津田島祇園祭での子ども歌舞伎の上演が再開されました。

設立から約30年が経過した現在も、地元を舞台とした演目を大切に上演しています。

また、平成22年からは、田島小学校3年生を対象にプロの指導者を招き、歌舞伎体験をする取り組みが続けられています。平成25年からは、特別舞台公演と銘を打ち、子どもたちの発表の舞台として本公演を開催しています。





田島しやんぎり保存会の皆さん



田島小学校3年生の皆さん



田島祇園祭屋台歌舞伎保存会の皆さん

どなたでも田島祇園祭屋台歌舞伎保存会の活動に参加できますので、役者や裏方に少しでも興味をお持ちの方は、お気軽に生涯学習課までお問い合わせください。  
【問合せ】生涯学習課 芸術文化係 電話 0241-62-6311

第二部 一谷嫩軍記  
〜須磨ノ浦の場〜



3



2



1



6



5



4

- 1 義太夫を務めた中学生
- 2 平敦盛を探す許嫁の玉織姫
- 3 玉織姫を口説く源氏の平山
- 4 馬上で戦う熊谷次郎直実と平敦盛
- 5 無冠の太夫、敦盛
- 6 実は、一子小次郎直家の首を持つ熊谷

第三部 南山義民の碑  
〜地蔵が辻の場〜



3



2



1



5



4



8



7



6

- 1 黒谷村名主の儀右衛門と小栗山の喜四郎が出会う
- 2 小川屋の娘おみつを助ける新遠路村名主の久次右衛門
- 3 おみつを手込めにしようとする郷頭の大須賀金吾
- 4 おみつを心配する父で小川屋主人の平左衛門
- 5 滝沢村名主の喜左衛門も加わり直訴を決意する
- 6 黒谷村名主 儀右衛門
- 7 滝沢村名主 喜左衛門
- 8 小川屋主人 平左衛門